2015・9・1　　Vol・1635

（1962年3月7日 第3種郵便物認可）西鉄組合新聞　（毎月1日発行）

NISHITETSU KUMIAI PRESS

西鉄組合新聞 9月号

❑ 発　行　所／福岡市中央区大手門1丁目4番16号
TEL092-771-2931
西日本鉄道労働組合
❑ 編集発行者／渡辺 裕二
定価 1部 30円 送料共
（この新聞は組合費の中から購読料を徴収しています。）

第24回参議院議員選挙 組織内候補

森屋（もりや）たかし

みんなで描く地域の未来
みんなの想いを国政に

九州地連「第71回定期大会」

2015年度運動方針などを決定

■開催日:8月26日(水)・27日(木)
■場　所:宮崎県宮崎市

～産別運動前進、森屋たかし当選へ全力を傾注～

九州地連は、8月26日～27日、宮崎市にて「第71回定期大会」を開催し、
2015年度運動方針・2015年度予算などが、活発な議論を経て原案通り決議されました。
また、「森屋たかし」組織内候補必勝に向けた決議、恒久平和の実現をめざす平和宣言、
大会宣言についても満場一致で採択されました。

代議員

【自動車部門】
大智　啓志（松原）
大重　英樹（柏原）
笹野　祐二（早良）
中村　昭徳（愛宕浜）
安永　俊秀（新宮）
田中　隆一（金武）
中島　孝徳（百道浜）
萩原　稔也（土井）
鞭馬　隆行（那珂川）
上田　徹（片江）
馬奈木　武（壱岐）
古藤　博光（宇美）
岩松　文夫（吉塚）
城戸　剛（香椎浜）

【鉄道部門】
金子　繁（柳乗）
西川　智生（貝塚）
甲斐　賢（筑工）
福田　顕教（電気）
古賀　昌克（線技）
渡辺　裕二（本部）

【兼業部門】
今本　浩太（事務）
入江　大樹（事業）
橋本　和人（国物西日本）

【女性委員】
森山　珠美（新宮）

挨拶する窪田執行委員長

第21回 私鉄山の祭典

戦後70年 青女の熱き願いで続け！恒久平和

「学習、団結、友情、連帯」

7月22日(水)～24日(金)、福島県耶麻郡「国立磐梯青少年交流の家」で、学習・団結・友情・連帯をスローガンに、「第21回私鉄山の祭典」が行われ、九州地連からは11名が参加し、そのうち西鉄労組は7名参加しました。

初日、地元の山木屋太鼓のセレモニーを皮切りに開会式があり、その後記念講演として、私鉄総連組織内議員　辻元清美衆議院議員による「震災復興と日本のゆくえ」についての講演がありました。内容は、2011年3月に発生した東日本大震災当時の話から現在の安保法案へ。この法案は憲法違反で、連日抗議集会が開かれているとのことでした。もし戦争が起きてしまえば、私鉄の仲間、バス・電車が戦争のための輸送等に駆り出されてしまうので、今の状況を改めないといけないと熱く訴えられました。

また、夜には「女性集会」が開催され、①宿泊業務や通勤に関する女性の意見が職場で通るのか？／②貸し切りの新料金制度になってから変化したことは？／③ガイド乗務以外の時は何をしていますか？／④子育てしながら働く中で良いメリットはありますか？／⑤生理休暇は取れますか？／⑥山の祭典に参加したきっかけは？、という議題で意見交換を行いました。

2日目は、フィールドワークで飯館村方面へ貸切バスで移動し、復旧・復興の現状や福島第一原発の30km圏内の現状を視察しました。夕食では、食の祭典があり、各地の名物を出し合い、九州ではとり天チキン南蛮風を作り全国の方々に食べていただきました。

最終日は、「平和について考えよう」と題して分散会があり、その後、分散会報告、各地連決意表明、団結がんばろうで山の祭典は無事終了しました。

（青年部長　真名子）

私鉄山の祭典に参加して

原発事故、バス運転士の使命を知る
香椎浜分会　吉良　匠也

開会式では、参議院議員組織内候補森屋たかし氏より「交通政策実現に向け取り組んでいきたい、そのためには若い力が無くてはスタートラインにも立てないので、みなさんの想いを託して欲しい」と挨拶があり、私鉄の未来を考えてくれていることを感じ、来年の参議院議員選挙においては、森屋氏の必勝に向け取り組んでいかなければと思いました。また、私鉄総連準組織内議員の辻元清美氏の講座があり、「原発事故が起きた場合、非難のための緊急輸送を交通産業で働く皆様にお願いしなければいけないとバスの重要性を述べられ、私たちバスの運転士は危険な場所に行かなければならないことを知りました。

そして、南相馬市の視察では、まだまだ復興には時間がかかることを思い知らされました。

震災時の体験談に心が震え、涙も
桧原分会　長谷川雅美

「私鉄山の祭典」への参加は今回で3回目なのですが、前回、前々回の内容と比べ、今回は色々と趣向が凝らされていてとてもよかったです。

その中で印象に残ったことは、原発から20km圏内に入ると残された民家も少なく草地が広がっていた風景で、震災当時の瓦礫はほとんど片づけられているものの放射性物質が含まれているものが放置されたままであり、復興にはまだまだ時間がかかると感じました。また、閉会式での東北地連議長の安斎さんによる東日本大震災での被災者を運ぶバスの話では心が震え、思わず涙しました。震災の時には、多くの私鉄の仲間と協力し、その使命感で乗り越えてきたことが本当によく分かりました。今回学んだことや感じたことを今後の糧として、これからも青年女性協議会の活動に邁進していきます。

震災の現状、そして戦後70年を学ぶ
筑紫乗務分会　本山　善教

フィールドワークとして被災地視察に南相馬を出発し、小高区周辺、原町区周辺、鹿島地区周辺を廻りました。30km圏外の視察とのことでしたが、言葉を失うほどでした。テレビでは、復興に向かっていると報じられていますが、そのようには全く感じられませんでした。

10年かかっても元の南相馬市にはならないかもしれないけれど、みんなが力を合わせれば、新しい南相馬市を創れると信じている。まさに今の子供たちが南相馬市の希望であり宝なのだと聞いて胸が熱くなりました。私も復興のために、何か少しでも役に立てるよう考えながら行動していきたいと思いました。

今年は戦後70年という節目の年でもあり、今の日本は平和国家から軍事国家へ、戦争ができる国へとなりつつあります。そうならないためにも、私たち一人ひとりが今の日本の現状を知り、決して他人事だと思わず、考えなければなりません。

この3日間の山の祭典で沢山のことを学び、得ることができました。この貴重な経験を活かし、まず伝えていくことから始めたいと思います。

辻元議員の講演で、危機感を新たに
筑紫乗務分会　金子　敏隆

辻元清美準組織内議員の講演を聞き、一番心に残ったのは、現在ニュースなどで報道されている安保法案に関する話でも、もし戦争が始まったら私たち私鉄産業で働く者が最初に行かなければならないという話でした。正直、自分たちにはあまり関係のない話だろうと思っていましたが、講演を聞き怖くなりました。また、戦争に協力することによるテロへの恐怖などを考えると、安倍政権は本当に残酷だと感じました。

被災地に行くのは初めてで、当時の状況は分からないですが、完全な復興までにはまだまだ時間がかかることを実感しました。

今回、「山の祭典」に初めて参加させていただきましたが、被災地の状況など自分の目で見ないと知ることのできないことを沢山勉強させていただきました。学んだことを自分の職場で伝えていかなければならないし、自分もまた他の地連の方たちとの交流を通じて少し成長できたと思います。

次世代が戦争にいく世の中は見たくない
柳川乗務分会　廣松　丈貴

1日目の学習では、平和に対する思いを特に強くしました。日本は今年で戦後70年の節目となりますが、現在、安倍首相は近隣諸国との政治的摩擦を顧みず、靖国神社を公式参拝し、さらには「国家安全保障会議」の設置、「特定秘密保護法」の強行採決、「武器輸出三原則」を骨抜きにする「防衛装備移転三原則」、憲法解釈の変更による「集団的自衛権行使容認」の閣議決定を行うなど、「積極的平和主義」を隠れ蓑に、戦後日本の平和主義を支えてきた基本政策を大きく変え、着々と戦争のできる国づくりを推し進めています。日本の過去を振り返っても、平和と自衛の名のもとに戦争が始まり、多くの国民が犠牲になりました。過去の悲惨な戦争を再び繰り返さず、平和を維持していくためにも、今まで以上に反戦、平和、反基地、反核の運動を行い、真の平和の構築へと繋がる取り組みを強化していくことが求められています。私たちの孫世代が戦争にいく世の中は見たくありません。そのためにも青年女性がひとつになり、正義感から行動していかなければなりません。

2日目のフィールドワークでは、福島県相馬市をバスで視察しました。車内では相馬市議会議員からの説明もあり、当時の状況、現在の状況の説明がありました。20km圏内の警戒区域は建物がなく、防波堤は崩壊したままなど、特に酷い状況で、放射線量が高いため住民は住むことができず、津波と原発事故の恐ろしさを改めて実感しました。

今回の山の祭典で学んだこと、感じとったことを今後の組合活動に活かすとともに、職場の方々に伝えていこうと思います。

私鉄総連「第37回西ブロック地方労働学校」

■開催日:5月19日(火)～21(木)
■場　所:鳥取県

私鉄総連「第37回西ブロック地方労働学校」が開催され、西鉄労組からは、大重分会長(柏原)、重松分会長(線路技術)、佐伯分会長(国物東日本)が参加し、産別運動強化、交通政策、集団的自衛権、経営分析などのテーマについて学習を深めました。

開校式で、木村敬・中央労働学校長は、「私鉄産業を取り巻く環境は、就業、就学人口の減少などで厳しさを増している。その一方で、交通政策基本法の制定、活性化再生法の改正、交通政策基本計画の閣議決定など、公共交通再生への足掛かりになる枠組みができつつある。これらについて熟知し、実践が伴ってこそ法律が生きてくるので、公共交通を守る取り組みに英知を結集し、地域の単組役員と自治体議員が連携を強化することが必要である。また、『森屋たかし』私鉄総連組織内候補を来年の第24回参議院議員選挙で国政に送り出し、労働環境、労働条件の向上につなげていかなければならない」などと、述べられました。

続いて「森屋たかし」氏からの決意表明があり、「運動前進のため、支えてくれる皆様に感謝しながら、誠心誠意、真心をもって支持されるよう取り組んでいきたい。私鉄の運動を継承していくため、しっかりと学び合おう」と呼びかけ、その後、講座に入りました。

講座内容

◆第1講座「私鉄産別運動の強化・発展について」　講師：私鉄総連　清水昭男副委員長
◆第2講座「交通政策基本計画・改正活性化再生法への対応・補助制度などについて」　講師：東洋大学大学院経営学研究科教授　石井晴夫氏
◆第3講座「集団的自衛権行使を許さず平和を守る取り組みについて」　講師：東広島市議会議員　赤木達男氏
◆第4講座「日本の未来と公共交通のゆくえ」　講師：衆議院議員・私鉄総連準組織内議員　辻元清美氏
◆第5講座「私鉄労働者のための経営分析」　講師：大東文化大学教授　山口由一氏

労働学校に参加して

森屋たかし氏、絶対当選へ向けて行動

柏原分会　大重　英樹

私は、今回初めて、私鉄総連「第37回西ブロック地方労働学校」に参加させていただきました。第1講座では、主要闘争の現状と課題について説明があり、春闘における取り組みでは、私鉄・バスを取り巻く状況と労働実態を把握し、政治・政策を掛け合わせた団結力を背景に、たたかいを進めなければならないという言葉が印象に残りました。続く第2講座では、交通政策基本法について、国や地方公共団体、民間事業者、地域住民との連携が必要不可欠であると感じました。

2日目の第3講座では、講師の想いが込められた講義となりました。私たちは今、揺るぎない平和への意志を強く持つこと、そして戦争の実相を忘れないことが必要であり、過去の過ちを二度と繰り返さないようにするため、安倍政権に断固として反対しなければならないという力強い言葉と、朗読された栗原貞子さんの詩「ヒロシマというとき」が強く印象に残りました。第4講座では、交通政策基本法を活用、推進していくためには、組織内議員が必要不可欠であり、「森屋たかし」候補は絶対当選しなければならないと思いました。そのために私たちができることは、親類、知人に声をかけて、必ず投票に行くことです。私たちの職場を守るために、全国の仲間と一致団結して頑張りましょう。

政治の必要性、地域連携の大切さ学ぶ

線路技術分会　重松　弘幸

鳥取県にて3日間に渡り行われた私鉄総連「第37回西ブロック地方労働学校」に参加させていただきました。第1講座・第2講座では、私鉄産業を取り巻く厳しい環境を改善するためには、政治の力を借り、地方自治体との連携を強化して公共交通の維持・発展につなげていかなければならないと強く感じました。第3講座では、集団的自衛権の問題について理解を深めることができました。安倍政権は国際貢献や積極的平和主義の名のもと、自衛隊の活動範囲を地球規模に広げ、武力行使や米軍の後方支援ができる国にしようとしています。戦後70年、日本国が憲法の平和主義の理念のもと一人の戦死者を出さずに今に至っていることを忘れず、平和を守る活動を継続的に行っていきたいと思いました。第4講座の辻元代議士は、私たち労働者の目線で話をされて大変分かりやすく、政治の必要性や地域と連携していくことの大切さを学ぶことができました。第5講座は、会社の経営分析、企業分析、企業価値評価など、普段聞きなれない言葉ばかりで少し難しい内容でしたが、「組合は会社をしっかり分析し経営を監視しなければならない。」という力強い言葉が印象に残りました。また、分散会や懇親会では、他の単組の方々と交流を深めることができました。今回、労働学校で学んだことを職場に持ち帰り、今後の組合活動に活かしていきたいと思います。

集団的自衛権行使阻止への思い強く

国物東日本分会　佐伯　和久

3日間に渡って行われた、私鉄総連「第37回西ブロック地方労働学校」に参加しました。第1講座では、産別運動の意義と必要性、主要闘争の現状と課題についての講義がなされ、我々が動かなければ成されないことの重要性を実感しました。続く第2講座では、鉄道・バス事業の現状と課題、交通政策基本法制定・交通政策基本計画策定についての講義がなされ、地方自治体が主体となって地域交通のあり方を示し、役割を明確にすることが必要であると教わりました。2日目の第3講座では、集団的自衛権が可決されたことで今後どのような展開が予想されるかについて詳細に話していただきました。私たちの子供たちに平和な世界を引き継ぐためにも、集団的自衛権の行使を阻止しなければならないと強く感じました。第4講座から学んだことは、公共交通とはあらゆる人にとってなくてはならないものであり、そのためにも「森屋たかし」私鉄総連組織内候補を来年の参議院議員選挙で国政に送り出し、労働環境、労働条件の向上につなげていかなければならないということです。3日目の第5講座では、実際の私鉄の有価証券報告書をもとに、2社の連結経営指標・連結財務諸表・連結貸借対照表・連結損益計算書・連結キャッシュフロー計算書などを読み解くことで、会社の健全な経営分析に役立つことを学習しました。基本的なところから説明していただいたので、ある程度理解することができました。

この3日間、学習を深めることができたとともに、他の単組の方々と交流することができ、大変充実した時間を過ごすことができました。今後の組合運動に活かしていきたいと思います。

〈お詫び〉誌面の都合により掲載が遅れたことをお詫び申し上げます。

西鉄労組「第1回ユニオンスクール」

■開催日：8月31日(月)
■場　所：西鉄労働会館

憲法違反の安保法案は廃案に！

西鉄労組では、「第1回ユニオンスクール」を開催し、中央委員・特別中央委員が参加しました。今回は、講師として「戦争を許さない福岡県民委員会」事務局長である弁護士の田中隆一氏をお招きし、「安保法制と平和主義(集団的自衛権とは)」というテーマでご講演いただきました。

講演の中で田中氏は、「安倍政権は、国家権力が憲法によって制限されるという政治原則を無視し、立憲主義(国民主権)を犯そうとしている。国民一人ひとりの問題として、反対の声をあげ続けていかなければならない」などと述べ、この安保法案は完全な憲法違反である上に、日本が戦争に巻きこまれる恐れがある大変危険な法案であることを分かりやすく解説していただきました。

講演中の田中隆一弁護士

西鉄労組では、今後も「戦争を許さない福岡県民委員会」の運動に積極的に参加し、安保法案の廃案に向けた取り組みを進めるとともに、国民が選挙で選んだ政権により「戦争ができる国」に変えられようとしていることから、今後の政治闘争(私たちの思いを国政へ)の取り組みの強化を図っていきます。

MANGA TIMES まんが・タイムス

「老後は大丈夫?」　筑紫乗務所　岩井 勝紀

「第150回西鉄労組定期大会」のお知らせ

■日時／9月25日(金)　10時開会
■会場／西鉄グランドホテル

※8月号の「総連第82回定期大会」の記事の中で、「古賀私鉄総連会長」は、「連合古賀会長」の誤りでした。お詫びして訂正致します。

東日本大震災支援ボランティア

東日本大震災から4年半が経過し、ボランティア活動者は激減しています。一部では復旧が進んだものの、未だ20万人を超える方々が避難生活を余儀なくされており、震災を風化させてはなりません。社会貢献活動は、組合の重要な役割の一つであるため、今後も取り組みを継続していきます。

第28期名簿

団　長　永竿　哲哉(西日本鉄道)
副団長　松本　洋次(西鉄労組)

上山　仁志(西日本鉄道)
江原　拓也(西鉄テクノサービス)
金堀　博雄(西日本鉄道)
金子　誠(西日本鉄道)
川口　潤(西日本鉄道)
久保田　等(西鉄テクウェティングサービス)
倉元　勲(西日本鉄道)
作道　竜也(西日本鉄道)
島本真理子(西鉄テクウェティングサービス)
白石　宏(西鉄旅行)
白壁　清一(西鉄テクノサービス)
末石　清二(西鉄グリーン土木)
末松　義仁(西日本鉄道)
高尾　清治(西鉄テクノサービス)
田中　秀典(西日本鉄道)
辻川　慎司(西鉄エムテック)
中尾　芳人(西鉄人事サービス)
中垣　淳(西日本鉄道)
永田三都夫(西日本鉄道)
服部のりゑ(NJアグリサポート)
藤野　春雄(西日本鉄道)
山田　貞二(西日本鉄道)
樋口　宗信(西日本鉄道)
泉田　幸徳(西日本鉄道)